

お知らせ

# 女性研究者のための賞 2019年度受賞者

内閣府の第5次科学技術計画(平成28年度~32年度)では、  
女性の能力を最大限に発揮できる環境を整備し、  
その活躍を促進していくことが不可欠である、と謳われています。  
農芸化学分野においても、研究および産業の発展を図るためには  
女性研究者の人材育成と各分野での活躍が必要です。  
そこで、日本農芸化学会は大学、公的研究機関、企業等で  
研究あるいは開発に従事し優れた成果を挙げている女性正会員を  
“支援”し“可視化”することを目的に、3つの賞を2017年に創設しました。  
このたび、農芸化学女性研究者賞、農芸化学若手女性研究者賞、  
農芸化学女性企業研究者賞の2019年度受賞者を決定しました。

公益社団法人日本農芸化学会会長 佐藤 隆一郎  
男女共同参画担当理事 裏出 令子、熊谷 日登美



## 農芸化学 女性研究者賞

農芸化学分野で顕著な研究成果をあげた女性研究者で、表彰年度の4月1日時点で満50歳以下の女性正会員を顕彰する賞です。



## 農芸化学 若手女性研究者賞

農芸化学分野で優れた研究成果をあげた女性研究者で、表彰年度の4月1日時点で満35歳以下の女性の正会員を顕彰する賞です。



## 農芸化学 女性企業研究者賞

企業において農芸化学分野の研究あるいは商品開発における顕著な成果に貢献した女性の正会員を顕彰する賞です。チームの一員として挙げた成果もこの賞の対象となります。



2019年度

# 農芸化学女性研究者賞 受賞者(3名)



飯島陽子氏

【神奈川工科大学 応用バイオ科学部・教授】

## 受賞題目 AWARD SUBJECT

「植物性食品の香りを主とする質的特性に対するその因子探索とフードメタボロミクスによる展開」

## 飯島陽子氏からのメッセージ MESSAGE

学生時代、食品化学実験の授業で、様々な香りをもつ香気成分から醤油らしい香りが構成されていることを実感し、食品の奥深さに魅かれ、研究をはじめました。その時その時ただ面白いと感じること、インスピレーションを信じ、生活環境を変え、新しい研究分野にも飛び込み、「為せば成る!」で今に至ります。その間に培った研究思考、他の研究者の方々とのつながりは、今では大切なものとなっています。農芸化学研究の世界、女性だからこそ気づけること、発揮できることもありますよ。



丸山千登勢氏

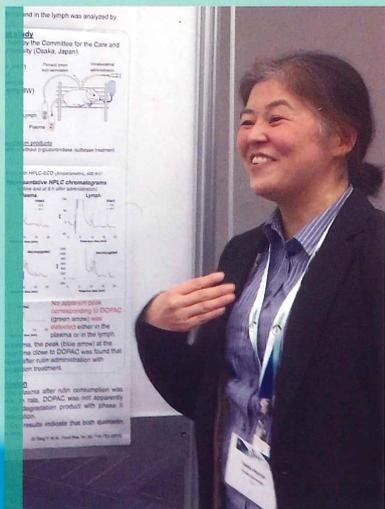
【福井県立大学大学院  
生物資源学研究所・講師】

## 受賞題目 AWARD SUBJECT

「抗生物質ストレプトスリシンおよびその類縁化合物の生合成研究で見出した新規ペプチド合成酵素」

## 丸山千登勢氏からのメッセージ MESSAGE

微生物が持つ巧妙な生合成酵素に魅せられ、探究心のままに没頭してきました。私には家庭と仕事を上手にこなせる器用さはなく、私の研究への思いを周りの先生や学生達、家族が感じ、支えてくれたおかげで続けることができました。自分らしく責務を持って努力する姿は、どこかで誰かの心に届き、支えてくれます。これから研究を志す皆さんにも、やらずに後悔するよりも、挑戦して経験を糧とする心意気を持ち続けてほしいと思います。



室田佳恵子氏

【島根大学学術研究院 農生命科学系・教授】

## 受賞題目 AWARD SUBJECT

「食品由来フラボノイドの生体利用性に関わる化学構造の特徴と生体内代謝物の同定」

## 室田佳恵子氏からのメッセージ MESSAGE

たまたま最初に職を得た研究室のテーマであったことがきっかけで、抗酸化食品成分について研究を始めました。大学院では脂質の吸収について研究していたため、フラボノイドでも生体利用性に興味を持ち、現在に至ります。ほんの少しの化学構造の違いが吸収代謝に大きく影響するのが面白くて、様々なフラボノイドを比較する研究に取り組んでいます。研究を楽しむ努力する才能に性別は関係ありません。意欲と諦めない気持ちが大切だと思います。

# 農芸化学若手女性研究者賞 受賞者(3名)



岡谷(永井)千晶氏

【国立研究開発法人産業技術総合研究所  
創薬基盤研究部門・研究員】

## ◀ 受賞題目 ▶ AWARD SUBJECT

「生理活性ペプチドの機能解明に向けた生物有機化学的研究」

## ◀ 岡谷千晶 氏からのメッセージ ▶ MESSAGE

大学の講義で、微量の生理活性物質による生体制御に興味を持ち、研究を始めてその奥深さや新たな発見を見出すやりがいに魅了され、現在に至ります。女性特有のライフイベントとの折り合いをつけつつ研究者として第一線で活躍できるのか、という悩みを抱えつつも、周りの方々の理解・支援のおかげで研究を続けられています。農芸化学分野には女性研究者が活躍できる環境があります。自分の可能性を信じて、是非やりたい研究に突き進んでください。



伊藤 静氏

【静岡大学 グリーン科学技術研究所・特任助教】

## ◀ 受賞題目 ▶ AWARD SUBJECT

「キノコ由来の生物活性2次代謝産物に関する化学的研究」

## ◀ 伊藤 静 氏からのメッセージ ▶ MESSAGE

研究は楽しい。いつも心に留めているのが、恩師である河岸洋和先生にいただいた「キノコホルモンを見つけよう」「教科書に載せるような研究しよう」という言葉です。私はキノコを対象にした天然物化学に興味を抱いて、これまで誰も知らなかったことを解明したい、生命現象を直に動かしている小さな分子を発見したいと思っています。研究と育児の過程で、楽しい事、悲しい事が色々ありますが、「最後まで諦めない!夢を忘れずに!」をモットーに楽しく生きていけると思っています。



吉田彩子氏

【東京大学 生物生産工学研究センター・  
日本学術振興会特別研究員(RPD)】

## ◀ 受賞題目 ▶ AWARD SUBJECT

「アミノ酸代謝酵素を中心とした機能と調節に関する研究」

## ◀ 吉田彩子 氏からのメッセージ ▶ MESSAGE

私は初めから研究者を志していたわけではなく、面白いと思うことを選択し、続けてきた結果として、現在があります。微生物のもつ酵素について研究していますが、仮説を立て、実験を行うと、良い意味で裏切られることが多く、生物の持つ巧妙さに日々驚かされています。まだ誰も知らないことを自らの手で実証し、世に出すという研究者の仕事はやりがいがあります。挑戦を恐れずに、興味を持ったことを、とことん突き詰めれば道は開けると信じています。

# 農芸化学女性企業研究者賞 受賞者(3名)



大室 繭 氏

【アサヒビール株式会社 酒類開発研究所・主任】

◀ 受賞題目 ▶ AWARD SUBJECT

「ビール酵母の発酵に寄与する因子解明と産業への利用」

◀ 大室 繭 氏からのメッセージ ▶ MESSAGE

もともとビールが好きで、自身の研究が活かされたうまい!ビールをつくりたいと思い企業で研究者として働くことを選択しました。ビール酵母はビールの味を決めるといっても過言ではなく、自身の研究と熱い仕事仲間との協調によってビールをつくっていくのはやりがいがあり誇りを持って働いています。沢山のヒトに出会いながら自分の好きなコト、大事なコトを見つけてチャレンジしていくことでハッピーな人生選択が出来るのではないかと思います!



田中 美順 氏

【森永乳業株式会社 素材応用研究所・副グループ長】

◀ 受賞題目 ▶ AWARD SUBJECT

「アロエベラ由来ステロールの機能性とその応用に関する研究」

◀ 田中美順 氏からのメッセージ ▶ MESSAGE

「砂漠で、鳥が選んで食べるサボテン(後にアロエベラと判明)には“特別な効能”があるらしい」という突拍子もないきっかけが、私の研究のはじまりでした。思い通りにいかないことが多いけど、様々な喜びもあるなど、子育てと研究は似ていると思います。女性研究者(の卵)の皆様、まずは考える前にやってみませんか?今後、活躍する女性研究者がより増え、粘り強くしなやかな発想で、科学を牽引していくことを期待しています。



富森 菜美乃 氏

【サントリーウエルネス株式会社  
健康科学研究所・研究主任】

◀ 受賞題目 ▶ AWARD SUBJECT

「ポリフェノールの体内動態に関する研究」

◀ 富森菜美乃 氏からのメッセージ ▶ MESSAGE

数学が好き、バイオテクノロジーがもてはやされていたこともあり農学部に進学しました。入社後5年目に医薬品の開発研究から健康食品を開発する部署に異動し、機能性成分の体内動態研究を行うことになりました。社内に専門家もおらず、試行錯誤の連続でしたが、誰も明らかにしていないことに取り組む楽しさが溢れていました。研究を通じて、お客様により安全で安心いただける商品をお届けできることも喜びです。誰もやっていないことにチャレンジしてみませんか?